

インマヌエル

アミール・ツアルファティ

- 間違いないキリストの神性について -

https://youtu.be/-q_ior9ZwoM

皆さん、シャローム。

ほんの数日前にできあがったメッセージをお分かちしたいと思います。このメッセージを、教会の説教台ではなく、エイラットという紅海の側のリゾート地でお伝えするとは思っていませんでした。でも、実は紅海の側でこれを伝えるのは、理にかなっているのです。なぜなら、イスラエルの民が紅海を渡った時、確かに神は彼らと共におられましたから。このメッセージをお分かちするのに、ここ以上の設定はないと思います。

では、ルカ24章44節のイエスの言葉を見てみましょう。イエスは、去る前に弟子たちに言われました。

わたしについて、モーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事からは、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。(ルカ24章44節)

イエスは言われました。「わたしについて書かれてある事柄は、必ず、すべて…」新約聖書の中ではありません。彼は新約聖書を持っていませんでしたから。彼は言いました。『わたしについて、モーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事からは、必ずすべて実現する。』“そのいくつかは、実現するかも…”ではなく、『必ずすべて』です。私は、これはすごいことだと思うのです。なぜなら、イザヤ書7章14節で、預言者イザヤは、後に起こることに関する驚くべき“しるし”と、驚くべき“象徴”、驚くべき“啓示”が与えられました。そして、彼は言います。

見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

(イザヤ7章14節)

興味深いと思いませんか？聖書は、預言書イザヤを通して、私達にこう告げているのです。ある処女がいて、彼女は誰とも一度も寝たことがない。聖書的に言えば、誰も彼女を「知らなかった」。彼女は処女でした。なのに彼女は、まだ処女の時に、処女のままで身ごもり、そして「男の子を産む」と。ところで、ここでは性別が非常に明確です。しかも、彼が男の子であるということが分かっているだけではなく、彼は「インマヌエル」と呼ばれます。言い換えれば、その男の子には名前があり、その名前は、基本的には彼のことを描写していて、「インマヌエル」。ヘブル語では非常に明確で、「インマヌ」は、“私達と共に”、「エル」は、“神”。「神が、私達と共におられる」言い換えれば、処女は、神とは全く関係がありません。処女が身ごもって、男の子を産む。その子が、「神が私達と共におられる」インマヌエル。理解しなければならないのは、これは神の代表ではなく、私達と共におられる神です。「インマヌ・エル」“神のよう”ではなく、“神”そのものです。

それから皆さん、よく見てください。なぜなら、ここの処女は神ではありません。ですから、拝む対象でもなければ、祈る対象でもありません。そうではなく、彼女は受肉した神を産むのです。つまり、強調しているのは、私達が拝み、私達が祈るべき方は、彼女が産む方である。それだけです。興味深いのは、これが、今日の宗教やカルトを試す為の、もっとも驚くべき方法の1つなのです。イエスに関して、彼らは本当に、神の御言葉に一致しているかどうか。

皆さんにお伝えしたいのは、数字がとても気になるのですが、世界の人口の95%が、たぶん、もっと多いと思いますが、ともかく控えめに言って95%が、実際には「イエスが神である」と考えていません。こんな事を言うと、「95%って、どういう事だ？」と思う人もいるでしょう。正統派ユダヤ教徒は、もちろんそれを信じていませんし、まさにそのために、イエスがご自分を神と同等にした事を冒瀆であると非難したのです。彼らは、メシアが神であるとは信じていません。したがって、イエスがメシアであると主張するなら、彼は神ではあり得ない。もし彼が、自分が神だと主張するなら、神以外、他には誰も神にはなり得ないのだから、明らかにそれは冒瀆だ、と。ですから、正統派ユダヤ教は、確実にイエスの神性を信じない宗教です。

イスラムは、イエスはただの預言者だと信じています。彼らは、イエスが神であるとは信じていません。イエスの名前の方が、コーランの中ではムハンマドよりも多く出てきますが、それでも彼は違うのです。モルモンは、もちろん、イエスとルシファーとサタンは、実は兄弟であると信じています。彼は神ではない、と。エホバの証人は、彼が大天使であると信じています。ヒンドゥー教徒と仏教は、彼は良い人であったと信じていて、カトリックは…、皆さん。彼らがマリアに祈り、マリアを拜むなら、マリアとイエスを礼拝の対象としていて、つまり実際に彼らは、イエスが神であり、彼は神格の一部である、と信じていないと言っているのです。神格は御父と御子と聖霊だけにあるものです。つまり、もし同時にマリアが礼拝の対象になり、祈りの対象になり得るのなら、彼らの理解では、イエスの神性が低い事になります。

もしこれで足りなければ、ニューエイジ支持者は、みな、実は私達が神々であると信じています。ですから、もし、我々が神々であるとか、もしくはイエスが超越していないか、もしくは、仮に神がマリアのようだったり、ただ教養のある良い人だとか、もしくは、彼がただの大天使であるとか、ただサタンの兄弟であるとか、仮に彼が、ただの預言者だとか、すべての道を辿った、ただの良い人だとか、そういったものはみな、イエスの神性も御父と御子と聖霊がひとつである、という事実を否定しています。非常に興味深い事に、ユダヤ人達は、次のように祈ります。

שְׁמַע יִשְׂרָאֵל יְהוָה אֱלֹהֵינוּ יְהוָה אֶחָד

聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。（申命記6章4節/マルコ12章2節）

「אֶחָד」というのは、複合的な単一体を表す言葉です。「יחיד」という言葉が、単数です。ですから、神が「これは、わたしの愛する子」（マタイ3章17節）と言われた時に、ヘブル語では、「יחיד」それが、「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。」（申命記6章4節/マルコ12章2節）つまり、それが意味しているのは、神は複合的な単一体である、という事です。非常に興味深いですね。

さて、これから2つの「インマヌエルの瞬間」に触れたいと思います。イスラエルを訪れた人たちに、私は、長年、いつも話していますが、きっと皆さんも分かると思います。このようなイエスとの出会いを経験すると、間違いなく神がそこにおられる事を実感するものです。まず第一に、マルコ4章35節から41節。

さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう」と言われた。そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行った。すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。ところがイエスだけは、ともものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。…」

彼らの中では、ただの先生だったのです。

私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われぬのですか。」（マルコ4章35節～38節）

彼らは誰かが頭に枕して、ぐっすりと寝ているのを見たのです。なにも恐れもせず。なのに彼らは恐れて、自分たちは死んでしまうと思いました。そして彼らには、どうして彼と同じ平安がないのか、理解ができませんでした。その後に起こる事が、とても興味深いです。

イエスは起き上がって、風をしっかりとつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。（マルコ4章39節）

ところで、ガリラヤ湖は、時々シリアとアフリカの地溝帯で風がぶつかるのです。北から南から風が来て、西からは地中海からのそよ風、それに東の砂漠からの風、つまり、非常に多くの風がしょっちゅうぶつかって、2.5m~3mほどの高波になる事もあります。嵐が強すぎて船を出す事ができなかった日々を、私もよく覚えています。今の今でも、あちらの嵐で命を落とした漁師達を探している人たちがいるのです。そこへ、イエスが言いました。「黙れ、静まれ」興味深いのは、聖書は40節で彼が言った事を伝えています。

どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。（マルコ4章40節）

さて、信仰とは、舟に信仰を持ちませんか？信仰とは、もっと大きなものに対してです。そして…

彼らは大きな恐怖に包まれて、…（マルコ4章41節）

嵐が起こり始めた時、彼らは恐れましたよ？しかし聖書は、主が嵐を静めた後、彼らが大きく恐怖に包まれた、と告げています。少しさかのぼると、当時は誰も聖書を所有していませんでした。当時、聖書は本ではなく、異なる著者による巻物を集めたものでした。もちろん、すべて神の靈感によるものです。それでも、印刷された本ではなかったのです。当時の最も裕福な人でさえ、自分の聖書は持っておらず、唯一、エルサレムの神殿の中か、シナゴグの中にだけあるもので、個人で所有するものではなかったのです。ですから、シナゴグに行っていた人達は、彼らが読んだのではなく、ひとりの人が皆の前で朗読したのです。皆が自分の聖書を持ってシナゴグに行ったわけではありません。だから、聖書は告げているのです。

信仰は聞くことから始まります。（ローマ10章17節）

読む事からではありません。なぜなら、彼らは行って、聞いたのです。そして、それを聞き、それらの御言葉に耳を貸した人達は信じたのです。聖書は、安息日にシナゴグに行くのが当時の彼らの慣習だった、と告げています。イエスも、ナザレのシナゴグに行きました。興味深いと思いませんか？彼らは、聖書を持っていませんでした。それなのに、どうやって彼らは主の御言葉を日夜、瞑想したと思いますか？暗唱するのです。では、一番暗唱しやすい書とは、何でしょう。もちろん、聖書の中で一番暗唱しやすいのは、詩篇です。他のどの書よりも、多くの歌が詩篇から来ています。詩篇の歌を歌う事が出来ます。今日の今日でも、ヘブル語のメシアを歌った歌は、ほとんどが詩篇からです。ですから、当時のユダヤ人のほとんどが、暗記する事が出来て、暗記していた書が1つあるとすれば、詩篇です。そこで非常に興味深いのは、詩篇89編8節~9節を見れば、こう告げています。

万軍の神、主。だれが、あなたのように力があられましよう。主よ。あなたの真実はあなたを取り囲んでいます。あなたは海の高まりを治めておられます。その波がさかまくとき、あなたはそれを静められます。

（詩篇89編8節~9節）

当時のユダヤ人の誰もが、1つの事を知っていました。唯一、高まる海と波を治め、静める事の出来る人物は、万軍の神、主だけである。だからイエスがそれをされるのを彼らが見たときに、彼らは互いに言った。

風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。（マルコ4章41節）

このことから、彼らがなぜ大きな恐怖に包まれたのかが分かるでしょう。彼らは気づき始めたのかも知れません。彼らの「インマヌエルの瞬間」だったのかも知れません。これは、ただの教師ではない。これは彼らと共にいる神。インマヌエルだ。とても興味深い事に、聖書はルカ5章1節～8節で、このように告げています。

群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき… (ルカ5章1節)

面白いと思いませんか？イエスは、一度も聖書を持ち歩かれませんでした。先ほども言ったように、誰も聖書を持ち歩いていませんでしたから。そして彼らは、“群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いた”のを見たのです。これが誰であれ、彼が「神のことば」もしくは、彼が「神のことば」を与え、彼らは、「神のことば」を彼から聞き取ったのです。彼らが聞き取ったのはラビの言葉ではなく、教師の言葉でもなく、解説者の言葉でもなく、どんな説明でもありませんでした。聖書は言います。

群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき、… (ルカ5章1節)

彼らは、彼から「神の言葉」が聞ける事を知っていたのです。なぜ？それは、彼こそが「神のことば」だからです。そして聖書は告げます。

イエスは、ゲネサレ湖の岸べに立っておられたが、岸べに、小舟が二そうあるのをご覧になった。漁師たちは、その舟から降りて網を洗っていた。(ルカ5章1節～2節)

私と一緒にイスラエルを訪れば、まさにこれが起こった場所をご案内しますよ。その場所が見つかったのです。そして…

イエスは、そのうちの一つの、シモンの持ち舟にのり、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そしてイエスはすわって…

いつでもイエスが座れば、教えが始まります。

そしてイエスはすわって、舟から群衆を教えられた。話が終わると… (ルカ5章3節～4節)

とても興味深いのは、「彼らが注意して聞いた」とか、「彼らは彼の口から出るひとつひとつの言葉に驚いた」とは聖書は告げていません。おそらく彼らは、何らかの奇跡を待っていたのでしょう。多くの場面で、彼らが奇蹟だけを求めていた為、イエスが彼らを叱っておられますから。

悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。(マタイ16章4節)

という事で、聖書は告げています。

話が終わると、シモンに、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。

(ルカ5章4節)

とても面白いのは、当時のシモンは、まだ、イエスの公生涯の思想が完全につかめていなかったのです。彼は、イエスの事を教師として尊敬し、おそらく、ラビとしても尊敬していたでしょう。しかしシモンは、イエスが恥をかくとあって心配したのです。だから彼は、こんなふうに言っています。

「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。(マタイ5章5節)

そしてこの、ユダヤ人のセリフが出ます。

「でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。」（マタイ5章5節）

面白くないですか？「あのね、ここには何もいませんよ。でも、あなたが言うなら、やりましよう」そして面白い事に、

そして、そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。そこで別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱい上げたところ、二そうとも沈みそうになった。（マタイ5章6節～7節）

こういった舟は、簡単には沈みませんよ？ものすごい重さにならない限り。いいですか？これらの漁師達は、生涯で一度もあれほど大量の魚を、あれほど短時間で、1つの特定の場所で取った事はありません。これが神の御業であった事は、疑いの余地がありませんでした。それから聖書は告げています。

これを見たシモン・ペテロは…（マタイ5章8節）

どうなったか、見てください。

これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」と言った。（マタイ5章8節）

神の臨在に触れると、2つの事が起こります。まず、自分がどれほど罪深いかを理解し、そして、それから主の聖さに耐えられなくなります。「私のような者から離れてください」驚くのは、預言者イザヤが、イザヤ書6章1節から5節で、ほぼ同じ経験をしているのです。イザヤが、主の臨在に触れた時に。

ウジヤ王が死んだ年に、私は、高く上げられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、セラフィムがそのうえに立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満ち」（イザヤ6章5節）

イザヤが神の臨在に入ったのは間違いありません。

…その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見ただから」（イザヤ6章5節）

さて、イエスは唯一、人が見る事の出来る方である事は、皆さんご存じですね。誰も御父を見て、生きていられる人はいません。神である御父が、モーセにそう言われましたから。それが、ここで彼は言っているのです。

「万軍の主である王を、この目で見ただから」（イザヤ6章5節）

イエスは王の王、主の主です。これは見事です。主の臨在の中では、見ての通り、イザヤもペテロも同じ反応をしているのです。

「主よ。私のような者から離れてください」（マタイ5章8節）

「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者だ」（イザヤ6章5節）

これは驚きです。これが分かると、本当に驚きます。それから、出エジプト記33章の事は以前も言いましたが、出エジプト記33章9節～11節には、こうあります。

モーセが天幕にはいると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。…

次を見てください。

主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。（出エジプト記33章9節～11節）

面白くないですか？主は、顔と顔を合わせてモーセに語られた。ほら、ルカ2章で、シメオンという老人がエルサレムで、あの驚くべき対面を果たした時に、聖書は45節～50節で、こう告げています。

イエスが宮で教師たちの真中にすわって、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。聞いていた人々はみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。両親は彼を見て驚き、母は言った。「まあ、あなたはなぜ私たちにこんなことをしたのです。見なさい。父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです。」するとイエスは両親に言われた。「ご存じなかったのですか。」（ルカ2章46節～49節）

彼女は、「私もあなたの父上も、」と言いましたが、イエスは彼らに対して、彼らの事を語っておらず、「わたしの父は天におられ、わたしは、父の仕事をしているのです」と言いました。

…しかし両親には、イエスの話されたことばの意味がわからなかった。（ルカ2章50節）

彼らは意味がわからなかった。とても興味深いです。聖書は出エジプト記33章18節で告げています。

すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」主は仰せられた。「わたし自身、わたしのあらゆる善をあなたの前に通らせ、主の名で、あなたの前に宣言しよう。わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

（出エジプト記 33章18節～20節）

ですから明らかに、もし、主を見て、主を目で見て、生きているなら、それは御父ではありません。もちろん、それはイエスです。それに、イエスが言われたのです。

わたしを見た者は、父を見たのです。（ヨハネ14章9節）

また主は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない」（出エジプト記33章21節～23節）

驚きです。ルカ2章25節～32節。

そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。（ルカ2章25節～26節）

興味深いですね。人が神を礼拝し、彼は御子であるメシアに会う、と聖霊が彼に明かしたのです。

彼が聖霊に感じて宮にはいると、幼子イエスを連れられた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、はいて来た。すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。（ルカ2章27節～28節）

これ、見てください。この図の中に三位一体があるのです。聖霊が彼にそれを語り…

彼は、神をほめたたえて言った。「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目が、あなたの御救いを見たからです。御救いは、あなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です」（ルカ2章28節～32節）

興味深くないですか？彼は、イエスを見ることが出来たのです。彼は、神が見えました。彼は、私達の救い、イエシュアが見えたのです。彼は御父に祈り、聖霊は、彼に、彼はまもなく御子を抱くと言いました。このようにして、神を見ることが出来るのです。見事です。

神性について、聖霊は何と告げていますか？ヨハネ10章30節。

わたしと父とは一つです。（ヨハネ10章30節）

イエスは、非常に明確にしています。「わたしたちは2つではなくて、1つだ」

わたしと父とは一つです。（ヨハネ10章30節）

実にシンプルです。ピリピ2章5節～6節。

…そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで…（ピリピ2章5節～6節）

なぜなら、彼は神と等しいですから。実にシンプルです。ヨハネ17章21節。

それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。（ヨハネ17章21節）

わたしたちは一つ。ヨハネ1章18節。

神を見たものは、かつてひとりもなかったが父のふところにいます、ひとり子の神だけが彼を示された。
(ヨハネ1章18節)

これ以上は、あり得ないほど明確です！もしこれで足りなければ、コロサイ2章9節～10節。

キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。

(コロサイ2章9節～10節)

わお！イエスご自身が、神であると宣言したのです。人に想像させようとしたのではなく、あやふやなまま放置したのでもありません。ヨハネ10章33節は告げています。

ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのために、あなたを石打ちにするのではありません。冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」(ヨハネ10章33節)

「あなたが、自分は神だと言ったから、その為に私達はあなたを石打ちにするのだ！」

ヨハネ5章18節。

このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。(ヨハネ5章18節)

驚きじゃないですか。彼は“ことば”である、と聖書は告げています。ヨハネ1章1節。

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。(ヨハネ1章1節)

その後、同じヨハネ1章の14節では、

ことばは人となって…(ヨハネ1章14節)

つまり、ことばは神であって、そして、ことばは人となって…

私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。(ヨハネ1章14節)

わお！イエスはまた、彼が唯一の天への道だと言われました。

第1ヨハネ5章20節。

…神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。(第1ヨハネ5章20節)

彼が、永遠のいのちです。

ローマ10章12節～13節。

ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。

(ローマ10章12節～13節)

『同じ主』とは、つまりイエスのことで、「主の御名、神を呼び求める者は、だれでも救われる」。

イエスは言いました。「I AM HE / わたしがその人だ」(ヨハネ8章57節～58節)

そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか。」イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいる(I AM)のです。」(ヨハネ8章57節～58節)

「I AM / わたしはいる(ある)」これは、神の御名です。覚えているでしょうか。神が、モーセに言いました。

ヨハネ8章22節～24節。

そこで、ユダヤ人たちは言った。「あの人は『わたしが行く所に、あなたがたは来ることができない。』と言うが、自殺するつもりなのか。」それでイエスは彼らに言われた。「あなたがたが来たのは下からであり、わたしが来たのは上からです。あなたがたはこの世の者であり、わたしはこの世の者ではありません。それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのこと(I AM HE)を信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。」

(ヨハネ8章22節～24節)

実にシンプルです。

ヨハネ13章18節～19節。

わたしは、あなたがた全部の者について言っているわけではありません。わたしは、わたしが選んだ者を知っています。しかし聖書に『わたしのパンを食べている者が、わたしに向かってかかとを上げた。』と書いてあることは成就するのです。わたしは、そのことが起こる前に、今あなたがたに話しておきます。そのことが起こったときに、わたしがその人である(I AM HE)ことをあなたがたが信じるためです。

(ヨハネ13章18節～19節)

もちろんここは、最後の晩餐で、ユダについて語っています。

イエスが初めであり、終わりです。イザヤ書44章6節。

イスラエルの王である主、これを贖う方、万軍の主はこう仰せられる。「わたしは初めであり、わたしは終わりである。わたしのほかに神はない。」(イザヤ44章6節)

ですから、これらの節を見て、言葉を見てください。まず、神はいない。しかし、わたしが初めであり、わたしが終わりである。わたしがイスラエルの王であり、そして贖い主である。

興味深いですね？彼はイスラエルの贖い主であり、そして彼はイスラエルの王です。これが、まさにイエスが宣言されたことで、また、主がここにおられた時に、彼を見た人達の主張です。

第1コリント8章6節。

私たちに、父なる唯一の神がおられるだけで、すべてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているのです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。(第1コリント8章6節)

同じです。唯一の神、唯一の主なるイエス。すべてのものは、この主によって存在し、私たちも、この主によって存在するのです。

見てください。黙示録2章8節。

また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。『初めであり、終わりである方、…

イザヤと同じ言葉です。

死んで、また生きた方が言われる。(黙示録2章8節)

黙示録1章17節～18節。

それで私は、この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は、右手を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後であり、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。

アーメン！

また、死とハデスとのかぎを持っている。(黙示録1章17節～18節)

拝まれるのは、唯一、神だけである、と聖書は告げています。そして、確かにイエスは拝まれています。マタイ2章1節～2節。

イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」(マタイ2章1節～2節)

拝まれるのは、神だけです。そして彼らは、生まれたばかりの彼を拝みに来たのです。マタイ28章8節～9節。

そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。すると、イエスが彼女たちに会って、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。(マタイ28章8節～9節)

彼は、拝まれました。拝まれるのは、唯一、神だけで、彼は、神です。唯一神だけが、拝む対象であるだけでなく、唯一、祈る対象です。祈りについて、言いたい事がたくさんあります。イエスが、祈り方を教えてくださいましたから。しかし、使徒の働き7章59節～60節が言わんとしている事に、注目してください。

彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。(使徒の働き7章59節～60節)

わお！主は拝まれるだけではなく、ステパノは石打ちに遭いながら、殉死する時に、彼に祈ったのです。

三位一体については、どうでしょうか。マタイ28章19節。

それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け…（マタイ28章19節）

三位一体があります。彼は神格の一部、彼は神です。第2コリント13章14節（日本語は13節）

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。
（第2コリント13章13節）

彼の神性は疑う余地がありません。ヨハネ20章27節～28節はどうでしょうか。

それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」（ヨハネ20章27節～28節）

わお！トマスは、「私の主。私の神」と、イエスに言ったのです。エホバの証人は、どうして「彼は主ではない」と言えるのでしょうか。私には分かりません。

もうひとつ。使徒の働き20章28節。

あなたがたは、自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを、群れの監督にお立てになったのです。
（使徒の働き20章28節）

「神がご自身の血をもって買い取られた神の教会」神の血とは、イエスの血。イエスは確かに神です。

ローマ9章

私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。…

続けてパウロは言います。

…彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。先祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン。（ローマ9章1節～5節）

アーメン、アーメン！

ですから、どうか皆さん、知ってください。イエスは確かにメシアであり、彼は贖い主、彼は道を示す方です。彼は「グル」ではありません。彼は、ただの「ラビ」ではありません。彼は、ただの預言者ではありません。彼は、ただの良い人ではなく、彼は、ある人達が言うような御使いではありません。彼は、神です。肉体をまとった神。ひとつ、皆さんにお伝えしたいのは、カルトを見分けるなら、まず初めに、キリストの神性についてどう考えているのかを、彼らに尋ねることです。皆さんに言うておきますが、今日、私の知っている人達が、どんどん、どんどん、どんどん、「イエスが神である」というこの真理から離れ始めています。これは大きな誘惑なのです。ユダヤ人の機嫌をとりたいたなら、ただ、イエスの神性を否定すればよいだけです。世界の機嫌をとりたいたなら、ただ、神の神性を否定するだけでよいのです。カッコよく見せたいのなら、神

が人の姿をしてきたなんて、ワケが分からないから？それなら、キリストの神性を否定すればよいのです。ニューエイジのようになりたいなら、「そうよ。彼は神で、私達も神。私達みんなが神なのよ」と言えばよい。他のすべての宗教によく見られたいのなら、「彼は良い人だった」と言えばよいのです。しかし、肝心の真実は、彼は神である、ということ。あなたがそれを理解しない限り、あなたは、決して彼を礼拝することが出来ません。あなたは、決して彼を信じる事ができません。あなたは、決して彼を受け入れることが出来ず、そして、あなたは、決して罪の赦しを受けることが出来ません。なぜなら、唯一、神だけにしか罪を赦すことは出来ませんから。そのため、キリストの神性の教えが激しく炎上し、激しく攻撃されているのです。私自身が、最近、それを感じました。物事をねじ曲げ、ひっくり返して、まるで私がそれを信じていないかのように見せかけようとするのです。たぶん、これはイエスに関して、私の中で最も重要なことでしょう。そして、それは疑う余地がありません。これはユダヤ人にとって、困難なことですよ。ユダヤ人にとっては、イエスが神であると信じるのは、超難しいことです。私の証の動画をご覧になれば分かりますが、私にとって、それはとても困難でした。でも、私にはどうしようもありません。それが真実ですから。真実を信じるか、否定するかのどちらかです。ずっと無関心でいるわけにはいきません。拒絶するか、受け入れるかのどちらかです。その中間はありません。

1990年6月、エルサレムの映画館でキャンパス・クルセードの映画「ジーザス」を見た時、あの夜に私は気づいたので。間違いなく、彼は、ただのイスラエルの王ではない。ただのイスラエルの贖い主だけではない。彼は、人の姿をした神だ。そしていまは、私が彼を信じたから、私の中に神、聖霊がいます。彼は決して私を見放さず、私を見捨てません。私は、本当に多くのことを乗り越えてきましたが、私は、主が私と一緒にいてくださることを知っています。「インマヌエル」神が私達と共にいてくださる。

お父様、あなたの御言葉に感謝します。このメッセージは、御言葉をはらんでいます。大事なものは、私達がどう考えるかではなく、あなたがなと言われたか、です。大切なものは、私達の個人的意見ではなく、あなたの御言葉です。

お父様、あなたを祝福します。あなたは旧約・新約の両方で、実に明確に示してくださいました。イエスは確かにインマヌエル。彼が、私達と共にいてくださる神です。創造の第1日目、彼が園を歩かれた瞬間、世の光となられた日から、はるか、よみがえりの日まで。あなたは、二度と死ぬことはありません。なぜなら、これが、“終わることのない命”のパワーですから。

お父様、ありがとうございます。彼は、神と等しくありながら、そこを離れ、私達と同じ人の姿をまとい、仕える者の姿となってくださいました。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。（ヨハネ3章16節）

あなたが私達に残されたのは、ただ、信じることだけ。あなたが他のすべてを成し遂げてくださいましたから。そして、あなたが私達に求めるのは、ただ、信じることだけです。イエスが舟の中で弟子たちに求められたのは、ただ、それだけです。どうして、彼らがそれを持っていないのか。

信仰の薄い者たちだ。（マタイ8章26節）

お父様、どうか、これからも私たちの信仰を強めてください。イエス様、あなたが私たちの内で、私達を通して、私達によって働いてください。どうかこれからも私達を用いて、実りをもたらし、人々を弟子としてください。

お父様、私達が互いに争うことに時間をとられず、御父のわざに励むようにしてください。弟子を作り、世界に手を伸ばして、福音を宣べ伝えられますように。イエスが主であり、彼は神です。世を救うために、人の姿で来られた神。驚くべき真実を感謝します。

イエスの御名によって。

アーメン、アーメン！

ありがとうございます。

I love you!

God bless you!

覚えていてください。彼（イエス・キリスト）が「インマヌエル」。

God bless you! I love you!

エイラットよりシャローム。

メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2019.06.27 (Thu)